

部活動顧問教員の精神健康度と部活動指導の関連について

佐藤 悠大

キーワード：精神健康度，顧問教員，部活動指導，ストレス，

Relationship between mental health of club activity
advisors and club activity guidance

Yudai Satou

Abstract

It is clear from previous studies that club activities are adding to the burden on teachers. Furthermore, efforts are currently being made to reduce the workload of teachers through work style reform, but the burden has not yet been reduced as expected.

It is important to understand the relationship between mental health and stress of teachers involved in teaching in order to improve the way teachers work.

The purpose of this study is to investigate mental health of teachers engaged in club activities guidance and to clarify the relationship between teachers' club activity guidance and mental health.

In addition, we investigated the effects of club activity guidance on mental health of teachers, and which situation during the club activity guidance caused the stress.

We conducted a two-way analysis of variance to clarify the relationship between club activities guidance and mental health of teachers at clubs in junior high schools and high schools. As a result, this study revealed that club activity guidance had little effect on mental health.

However, it became clear that about 50% of junior high school and high school teachers have some problems with mental health.

From this, it became clear that the relationship between the teachers' mental health and club activity guidance was small, but it is necessary to consider how to allocate work and take other measures according to the teacher's work situation.

Key words: mental health, club activity advisors, club activity guidance, stress,

1. 背景

近年、教員のメンタルヘルス異常が問題視されている。現在の教員の主な業務内容は日々の授業、その教材研究、校務分掌に係る業務、そして部活動などの教育課程外活動指導等があげられる。なかでも部活動指導は、平成29年3月に「部活動における指導ガイドライン」が策定され、活動時間や、望ましい運営などが示されているが、思うような負担軽減には至っていない状況である。

文部科学省が発表した「教員のメンタルヘルスの現状」（文部科学省，2012, p17）では、教員の仕事におけるストレスは「業務の量」、「業務の質」に強くストレスを感じるなどが示されている。

また、「教職員のメンタルヘルス対策について（最終まとめ）」（文部科学省，2013, p5）では、教職員のメンタルヘルスの悪化は、児童生徒への影響や、教員自身の教育活動への影響が懸念されているとしている。教員の休職者は減少傾向にあるものの依然として在職者数に対して1割強であることに変わらないことから、メンタルヘルスへの対策の充実・推進を図ることは重要な課題となっている。

同報告（文部科学省，2013, p7）では教員のメンタルヘルス悪化の背景として以下のように説明している。

「児童生徒と共に過ごす時間や教員の権威など、教員を支えてきたものが低減する一方で、教育活動以外の用務が増加し、特に負担感の大きいのが保護者との関わりといった業務などが増加している」と示している。

2. 目的

本研究は、部活動指導に携わる教員の精神健康度を調査し、具体的に教員の部活動指導と精神健康度の関連性について明らか

にすることを目的とする。

さらに、部活動指導が教員のメンタルヘルスに対してどのような影響を及ぼしているか、また、部活動指導のどの場面においてストレスを感じているかも調査し、教員の精神健康度と部活動指導との関連を明らかにすることが目的である。

3. 方法

3-1. 調査対象

宮城県内の同一地域の高等学校2校、中学校3校計5校で部活動指導を担当する教員を対象に無記名による質問紙調査を行った。

3-2. 調査手続き

中学校では、学校代表者に、研究目的、各校へのフィードバックの提出などを説明し調査協力の承諾を得た。

高校では、職員会議の貴重な時間に5分ほど研究目的、調査内容などの説明を行い、研究協力の承諾を得た。

3-3. 調査方法

中学校、高等学校に質問紙を持参し、学校代表者に各教員への配布を依頼した。回答終了後、調査用紙を個別に封筒に封入した状態で直接回収した。

3-4. 調査内容

調査内容は以下の3つの質問紙を使用した。

- ①基礎属性調査：独自に作成した性別、年齢、教員歴など基礎属性に関する調査を11項目で行った。
- ②ストレスチェックシート：山口・岩田（2017）の質問紙を改訂して、部活動指導におけるストレスについて計15項目で行った。
- ③GHQ28：中川・大坊（1985）らによって版化された質問紙。ゴールドバーグ（Goldberg.D.P）によって神経症者などの把握を目的に作成され、精神健康度

を調査する内容である。

4. 結果

本研究は、中学校 61 名、高等学校 67 名、合計 128 名の部活動顧問教員を対象に調査した。

有効回収率は、126 名で 98%であった。

ストレスチェックシートの因子分析の結果は以下の表 1 に示す。

表1 ストレスチェックシートの因子分析の結果について

	第一因子	第二因子
Q4 生徒の個別相談	0.80	
Q5 生徒との相互関係の構築	0.76	
Q1 生徒の理解・把握	0.75	
Q7 学級担任との連携	0.65	
Q2 保護者の対応	0.57	
Q12 試合・合宿による遠征		0.85
Q13 長時間指導		0.77
Q6 指導技術の向上		0.74
Q3 部活動練習プログラムの作成		0.72
Q9 校外関係者との連絡・調整		0.71
Q11 安全医療的知識の習得・研修の参加		0.68
Q14 試合・遠征費と活動費負担		0.60

ストレスチェックシートの質問項目で因子分析を行った。スクリーニングテストを基に 2 因子が抽出された。第一因子は、①生徒の理解・把握②保護者の対応④生徒の個別相談（進路指導含む）⑤部活動内の生徒との相互関係の構築⑦学級担任との連携（進路指導含む）5つの質問項目によって構成されている因子で、生徒の理解、相互関係の構築や個別指導などが、質問項目であることから「人間関係」因子と命名することができる。

第二因子は、③部活動練習プログラムの作成⑥指導技術の向上⑨校外関係者などとの連絡・調整⑪安全医療的知識の習得・研修への参加⑫試合・合宿による遠征⑬長時間指導⑭試合・遠征費と活動費負担の 7つの質問項目によって構成されており、練習や試合関係、また関係者との連絡調整などの質問項目であることから、「マネジメント」因子と命名することができる。

教員の部活動指導にかかわるストレスが精神健康度にどのように影響しているか明

らかにするため、二要因の分散分析を実施した。

二要因の分散分析を中学校、高校の学校種ごと、全体で実施した。（表 2 に示す）

中学校 6 項目（人間関係因子と身体的症状の性差、人間関係因子と不安・不眠の性差、マネジメント因子とうつ傾向のクラス担任、人間関係因子と不安・不眠の校務分掌、マネジメント因子と身体的症状の指導時間、マネジメント因子と不安・不眠の指導時間）において、有意な交互作用がみられた。

高校 9 項目（人間関係因子とうつ傾向の通算教員歴、マネジメント因子と社会的活動障害の通算教員歴、マネジメント因子とうつ傾向の通算教員歴、人間関係因子とうつ傾向の校務分掌、マネジメント因子とうつ傾向の校務分掌、人間関係因子とうつ傾向の部活動指導歴、マネジメント因子とうつ傾向の部活動指導歴、人間関係因子と社会的活動障害の部活動指導時間、マネジメント因子と不安・不眠の部活動指導時間）において、有意な交互作用がみられた。

中学校、高校で共通している有意な交互作用では、「校務分掌」と「部活動指導時間」の 2 項目がみられた。

結果の主な一部として、共通して有意な交互作用がみられた部分を表 2 に示す。

表2 中高のストレスチェックシートとGHQと属性の各項目の分散分析の結果

		人間関係因子（第一因子）			マネジメント因子（第二因子）		
		基礎調査	GHQ 得点	交互作用	基礎調査	GHQ 得点	交互作用
中学校							
校務分掌	不安・不眠	n.s	*	*	n.s	n.s	n.s
	身体的症状	n.s	n.s	n.s	**	**	*
指導時間	不安・不眠	n.s	*	n.s	**	**	*
		人間関係因子（第一因子）			マネジメント因子（第二因子）		
		基礎調査	GHQ 得点	交互作用	基礎調査	GHQ 得点	交互作用
高校							
校務分掌	うつ傾向	n.s	*	*	n.s	*	*
	不安・不眠	*	n.s	n.s	n.s	n.s	*
指導時間	社会的活動障害	*	*	*	n.s	**	n.s

5. 考察

部活動指導と精神健康度の関連性を明らかにするために 2 要因の分散分析を行った。

中学校、高校に共通してみられた交互作用が2項目(校務分掌, 部活動指導時間)であった。このことから、中学校、高校の教員がストレスと感じる内容(項目)が学校種ごとに違いがみられた。古川ら(2016)は、中学校の運動部活動顧問教師のストレスに関する研究で「部活動の時間的負担」「部員との意思疎通困難」「保護者の批判的態度」「他の指導者との人間関係の悪さ」「指導時間の不足」「活動意欲の低い部員」「学校内雰囲気との相違」の7因子が抽出されたことが明らかにされている。このことから、部活動指導が負担ではなく、部活動指導時間を確保したいが、難しい現状であるため、それらがストレスに感じていることが推察される。

中学校では、古川ら(2016)の研究と同様な結果が、本調査の有意な交互作用からみられた。

なお、中学校、高校の全体を通して、部活動指導が精神健康度に及ぼす影響は少なかった。しかし、クラス担任においては、1学年、2学年を担当している教員に負担がみられたことから、部活動顧問とクラス担任の兼任について考慮していく必要があるのではないかと考える。

6. 参考文献

山口順也・岩田吉生(2017) 小中学校の特別支援学級の教員の精神健康度とストレス要因 —メンタルヘルスチェックの分析結果から—, 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要, vol 2, pp.33~40, March, 2017

文部科学省(2012), 初等中等教育局, 初等中等教育企画課 教員のメンタルヘルスの現状 p4(6)2012, 3, 14

スポーツ庁 運動部活動の現状について, 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議(第1回)資料2,

2017, 5

文化庁, 文化部活動の現状について, 2018, 7

青柳健隆, 石井香織, 柴田愛, 荒井弘和, 岡浩一郎 運動部活動顧問の時間的・精神的・経済的負担の定量化 スポーツ産業学研究, Vol.27, No3(2017), 299 ~ 309

大坊郁夫, 中川泰彬(1985), 日本語版 GHQ28(Goldberg, D.P. 原著) 精神健康調査表, 日本文化科学社

古川拓也, 舟橋弘晃, 横田匡俊, 間野義之(2016) 中学校運動部活動顧問教師のストレスに関する研究 —運動部活動顧問教師用ストレス尺度の作成及び属性間による比較検討— スポーツ産業学研究, Vol26, No1(2016), 29 ~ 44

7. 謝辞

本論文作成にあたり、調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

また、指導教員である井上雅勝先生には、研究者だけでなく社会人としての心構えなど様々にご指導をいただきました。誠にありがとうございました。